

島根発の新しい「公共」

～過疎・高齢化のすすむ中山間地域を、(仕組みづくり・魅力づくり・人づくり)で再生する～

幸運なんです。 雲南です。

島根県 雲南市 事例報告

わたしたちの雲南市には

実にさまざまな幸があふれています。

美しい日本の原風景、自然の幸。

神話に彩られた史跡や文化遺産...歴史の幸。

毎日が新鮮、たわわな食の幸。

そして親(ちか)しく交わされる笑顔、人の幸。

変化が求められる時代に、

これだけの幸に恵まれた幸運に感謝して

このまちに生まれ、育ち、暮らすことに誇りを持ちたい。

幸運なんです。雲南です。

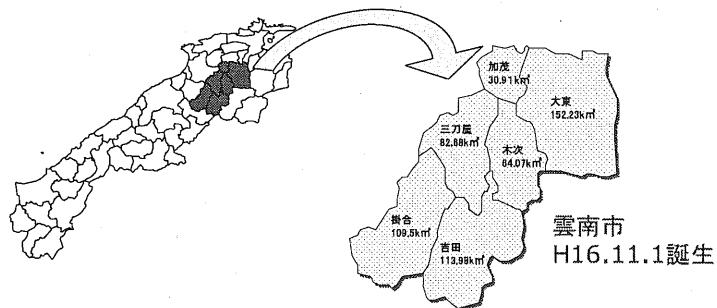
雲南市の概況 雲南市の地勢



人口予測

□ 大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田町・掛合町で構成される雲南市は、島根県の東部に位置し、松江市、出雲市に隣接し、南部は広島県に接しています。

総面積は553.4km²で島根県の総面積の8.3%を占め、その大半を林野が占めています。

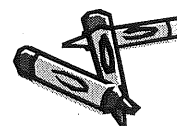


No.2

事例報告のポイント

- I. 地域自主組織の設立
- II. 地域振興補助金制度
- III. 地域マネージャー設置
- IV. 交流センター
- V. ひとづくり
- VI. 情報発信

実際の地域自主組織の活動を見てみよう!!



No.28

I. 地域自主組織の設立

地域自主組織を作って、 地域づくりを進めよう

- 検討の始まり
- 今、地域で何が起きているのか？
「マイナス面」
「プラス面」
「課題」から仕組みづくりへ
- 仕組みを実現するために地域自主組織を設立
- さまざまな組織が機能分担しつつ連携
- 地域自主組織のあらし
- 新しい仕組み がんばっていくポイント1
- 新しい仕組み がんばっていくポイント2
- 地区計画策定に取り組むうえで大切な点
- 地区計画策定の流れ

No.29

地域自主組織の設立検討の始まり

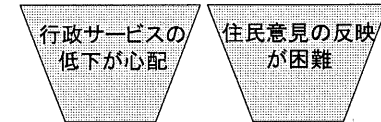
- 5町1村による合併協議会発足(平成14年10月)
- 「コミュニティ・住民自治プロジェクトチーム」を設置し合併後の住民自治について検討

- ・ きめ細やかな行政サービスが受けられなくなることへの懸念
- ・ 人間関係の希薄化
- ・ 以前に比べ衰退してきている地域活動への対応 など



本格的な住民自治の仕組みづくりの必要性
「お互いに助け合い、住みよい地域社会をつくる」

- 合併に関する住民アンケート



不安・懸念

No.30

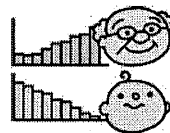
「今、地域で何が起きているか？」を整理すると

【マイナス面】

>(一つ目)

自治会(集落)機能の低下[人口減少(少子化・都市部への人口流失)、高齢化]

- ☞ 冠婚葬祭、特に葬儀・伝統行事の伝承などが困難なところも発生、絶対数の減によりリーダー不足が生じる。



>(二つ目)

自治会(集落)活動の停滞

- ☞ ①産業構造の変化と生活様式の多様化
⇒「地域」に対する想い入れの低下、若年層の参加が減少、リーダー不足 により活動が停滞。
- ②若者や女性の意見が反映されにくい仕組みとなっている
⇒男性を中心とした一戸一票制

>(三つ目)

住民自治意識の低下

- ☞ これまでは行政主導により進められてきた部分も多く、地域づくりに対する主体性が薄れていった結果⇒地域力の低下

>(四つ目)

市町村合併により、これまでどおりのスタイルでは限界

- ☞ 行財政改革を進める中で、予算や職員は減少していく。住民と行政が力を合せていく時代。

No.31

「今、地域で何が起きているか？」を整理すると

【プラス面】

>(一つ目)

社会貢献の動き

- ☞ 高度成長・右肩上がりの社会から持続可能な社会や生き方を見詰める時代へと変わって行き、ボランティア活動や特定非営利活動促進法(NPO法)やCSR(Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任)と言った社会に対して目を向けるようになってきた。

>(二つ目)

多様な技量

- ☞ 産業構造の変化や生活様式の多様化は、一方で多様な技量をもった個の存在になっている。



No.32

新たな地域コミュニティ組織づくり

【課題】

> (一つ目の課題)

「自治会(集落)機能の低下」に対して

☞ 「広域」で支えあう仕組みづくり

> (二つ目の課題)

「自治会(集落)活動の停滞」に対して

☞ 戸から個を大切に、女性や若者の意見をはじめ多くの住民の声を反映する仕組みづくり

> (三つ目の課題)

「住民自治意識の低下」に対して

☞ 住民自身が主体的に関わる仕組みづくり

> (四つ目の課題)

「市町村合併により、これまでどおりのスタイルでは限界」に対して

☞ これまで行政の分野としてきた「公」の部分にも協働により解決する仕組みづくり

No.33

仕組みを実現するために「地域自主組織」を設立 ＝仕組みの具体化＝

> (仕組み1 広域で支えあう)

◆ 単独の自治会を超えて、一定量の人口が確保できる公民館(現:交流センター)区や小学校区で地域自主組織を設立。

◆ エリア設定の基本的な考え方……この範囲は、暮らしに必要な基本的な生活機能が確保でき、生活面等において一定のつながりがあり、これまでも活動を通じてまとまり感を感じられ範囲が望ましい。

◆ スケールメリットを活かすことで「集落機能の保管」・「人材の確保」「連携の推進」が可能。

> (仕組み2 多くの住民の声を反映する)

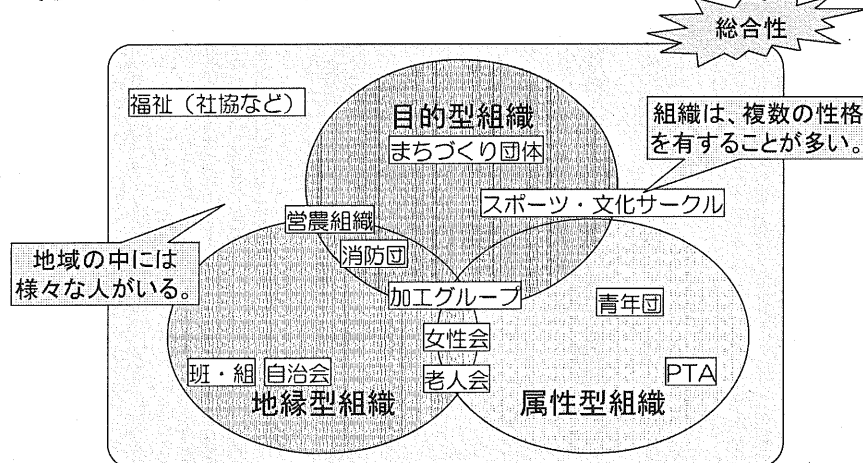
◆ 一戸一票制から一人一票制として、子どもや若者、女性など幅広い世代が関われる形を大切に、「ワークショップ」「個人アンケート」等による手法を取り入れる。

> (仕組み3 住民自身が主体的に関わる)

◆ 自分たちの住む地域は自分たちで良くしていく。そのために、地域自主組織による自分たちの住む地域の「地区計画づくり」を推進する。

No.34

様々な組織が機能分担しつつ連携



◎ 地域自主組織は、地域内の様々な性格を持つ人・グループ・つながりなどを包み込んだまとまり。

◎ 防災などの安全確保、楽しみの実現、生活課題解決など、複合的な活動を行う。

※島根県中山間地域研究センター 笠松主任研究員作成資料 No.35

地域自主組織のあらまし

□ 組織数

42組織

(比較:自治会数510)

□ 母体となる組織が設立された時期

S22年頃 ~ H19.9.30

□ 規模

> 世帯数 53世帯~993世帯

> 人口 186人~3,714人

> 自治会数 1~36

> 面積 0.85km²~73.05km²

(※面積については、加茂町エリアは測定数値がなく除く)

[平成22年4月1日 時点] No.36

難しいが、がんばっていくポイント!!

地域自主組織での新しい仕組み1

<自治会(集落)の性質>

- ① 会合には主に世帯主が出席。…「1戸1票制」
→ 男性の年配者による発想で物事を考える。
- ② 会合の内容を家族に伝えることが少ない。
→ 女性や若者が考え、意見を言う機会がない。
- ③ 代表者は持ち回り(輪番制)。
→ 新しいことに積極的に取り組むことが難しい。



<「地域自主組織」に必要なしくみ>

- ① 「1戸1票制」を打破し、子どもや若者、女性など幅広い世代が関わる「1人1票制」を実現する。
- ② 生活の維持、福祉、楽しみの実現、産業振興など、幅広い分野の活動を進める。
- ③ 課題ごとに部会を設けるなど、住民1人ひとりが「気軽に取り組める」、「楽しく取り組める」、「やる気を発揮できる」しくみをつくる。

ポイント1 そのためには、「ワークショップ」「個人アンケート」等により、子ども・女性・若者・高齢者などの意見や想いが反映できる手法を取り入れる。

No.37

難しいが、がんばっていくポイント!!

地域自主組織での新しい仕組み2

「個」(ひとり)のリーダーから

- ◆ リーダーの存在は大きいですが、リーダー1人が頑張るのも限界がある
- ◆ 活動を継続し、次に繋げるには1人のリーダーだけに頼るのは不安



「レンジャー型」リーダー(リーダー群)へ

- ◆ 地域の中には様々な人が存在、みんな何かの特技をもっている
- ◆ それぞれの得意技を活かすことで、ひとり一人がその道のリーダーになれる
- ◆ 組織づくりや活動を通じてリーダーが育つ



ポイント2 みんなの得意技を持ち寄って、「リーダー群」をつくらう!

No.38

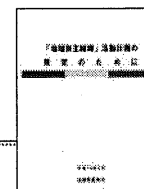
地区計画策定に取り組むうえで大切な点

- 計画づくりの過程を大切にす。
- ワークショップや個人アンケートを取り入れ幅広い意見を取り入れる。
- 課題を洗い出し、将来像を明らかにする。
- 地域住民が課題を共有する。

No.39

『「地域自主組織」活動計画の策定のために』の中から

地区計画策定の流れ一つの例



【合意形成の手順】

- i). 意見調査
① 全体意見の把握(個人アンケート)、② 意見の具体性の把握(ワークショップ)
- ii). 地区点検(地域探訪)
① 地区の現地点検をして歩く、② 地図上への記録
- iii). テーマ設定
① 計画構成となるテーマを設定 ② テーマごとのグループ討議
- iv). まとめ
① 全体討議による決定 ② 発表会による確認

【地区計画の構成】

- i). 計画の基本方針 ~何を指すのか~
- ii). 現在の主な活動 ~今何をやっているのか
- iii). 地区の良いところ ~良いところをあげる
- iv). 地区の課題 ~地区の課題は何か~
- v). 地区のまちづくり資源 ~まちづくりに活かせる資源を探す~
- vi). 具体的な計画 ~何のために、何を生かし、何に取り組むか~
- vii). まちづくりを進めるための行動計画 ~どのように進めるのか~

No.40

Ⅱ.地域振興補助金制度

活動のきっかけと後押し

(地域自主組織を支援する取り組み)

■ 市民活動団体の活動促進と支援

市民活動の要件

地域振興補助金 制度内容と活用状況

活用事業報告会

No.41

市民活動団体の活動促進と支援

□ 市民活動とは

市民が自らの信念と責任に基づき、自発的かつ自立的に行う活動であって、営利を目的とせず、かつ、地域における社会福祉の増進、環境の保全、教育及び文化の向上、まちづくりの推進、国際協力及び交流の推進など市民の不特定かつ多数の利益の増進を目的としたもの。(宗教的、政治的宣伝目的のある活動は除きます。)

□ 市民活動団体の要件

市民活動を組織的かつ継続的に行なう非営利団体で、次に掲げる要件を満たすものをいいます。(例えば、地域自主組織、まちづくりグループ及びNPO法人などがあります。)

- (1)10人以上の構成員がいること。
- (2)事務所の所在地が市内にあること、又は市民活動団体の活動が市内で行なわれていること。
- (3)市民に開かれた団体であること。
- (4)代表者、運営の方法を定款又は規約又は会則で定めていること。
- (5)独立の組織であること。

No.42

□ 市民活動団体数

- 地域自主組織 43団体(うち1団体は連絡協議会組織)
 - まちづくりグループ 148団体
 - NPO法人 6団体
- 合計197団体(H22年3月末現在)

□ 市民活動団体への支援 ←地域振興補助金

【補助の目的】

市民一人ひとりが真に豊かに暮らせる地域社会の実現を目指し、地域や市民の皆さんが自主的に企画・提案し取り組む活動に対して支援すること

【予算配分】

平成22年度は、総額49,000千円の内、市全体の施策に5,500千円、総合センター(旧町単位)に43,500千円を配分

No.43

【補助限度額等】

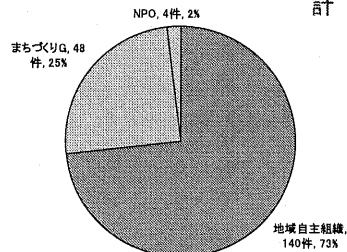
補助対象事業は、地域振興に資するための原則ソフト事業

- ①地域自主組織 1事業あたり原則50万円以内/年額。
補助期間は3年以内。補助率1年目90%以下 2年目70%以下 3年目50%以下。
- ②地域マネージャー設置、予算の範囲内。
補助期間は3年以内。
- ③まちづくりグループ、1事業あたり原則30万円以内/年額。
補助期間は3年以内。補助率1年目75%以下 2年目65%以下 3年目50%以下。
- ④NPO法人、1事業あたり原則30万円以内/年額。
補助期間は3年以内。補助率50%以下。
- ⑤NPO法人の設立補助、原則20万円以内/1回。
- ⑥NPO法人設立後の当該法人の管理運営に必要な経費、原則10万円以内/年額。
補助期間は2年以内。

No.44

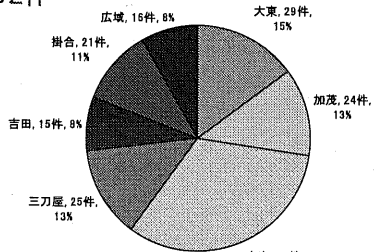
地域振興補助金 平成21年度での活用状況

団体区分による事業件数

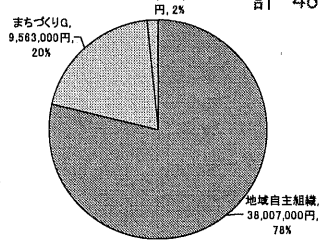


計 192件

地域別の事業件数

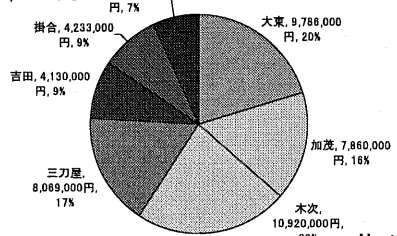


団体区分による交付状況



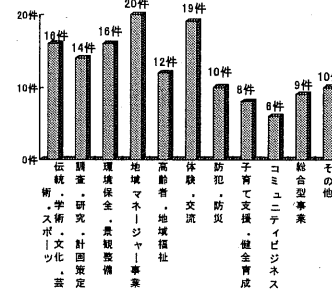
計 48,330,000円

地域別の交付決定額

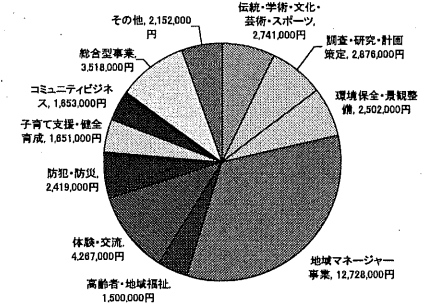


No.45

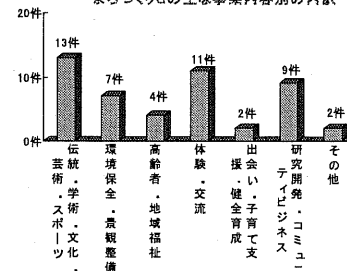
地域自主組織の主な事業内容別の内訳



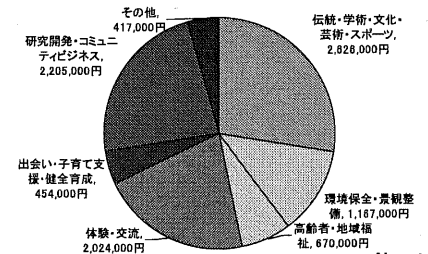
地域自主組織の主な事業内容別の交付金額



まちづくりGの主な事業内容別の内訳



まちづくりGの主な事業内容別の交付金額



No.46

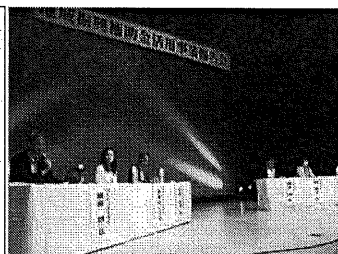
地域振興補助金活用事業報告会

地域振興補助金補助金の活用状況を広く公開すると共に、事業実施団体相互の情報交換或いは情報の受発信の場として開催

第5回(H22.6.5)の活用事業報告会

その中で、テーマを「いきいきとした活動としていくために」としてパネルディスカッションを開催。

まちづくりグループで活動されている3人にパネリストとして出演頂き、2人のゲストスピーカーを交えて議論を深めた。



No.47

Ⅲ.地域マネージャー設置

- 地域マネージャーの設置
- 現状
- 効果
- 活動
- スキル

No.48

地域マネージャーの設置

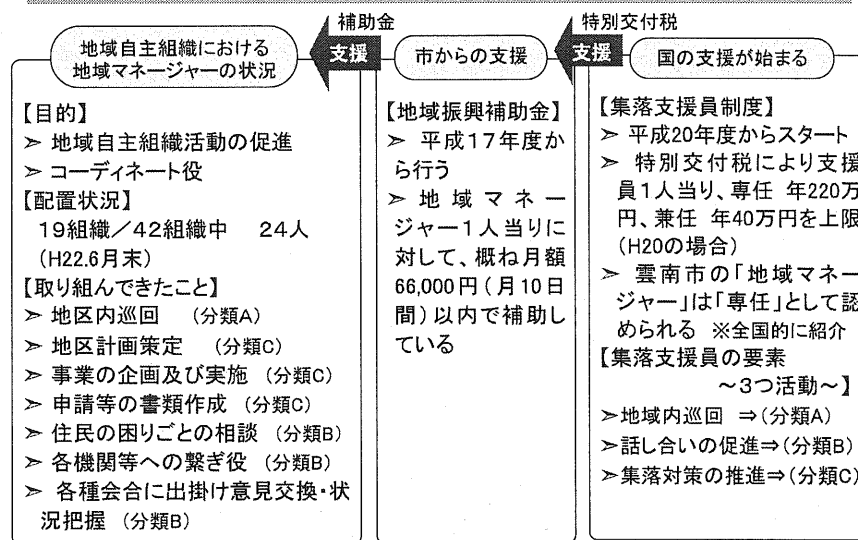
- 地域自主組織の活動を促進していくために設置
- 平成17年度からスタート
- 地域マネージャーの役割
(地域活動の企画立案、地区計画の策定や実施の支援等についてのコーディネート役としてスタート)
- 地域自主組織の判断により地域自主組織が設置
- 現在(H22.6.18調査日) 19組織に24名
- 地域マネージャーの設置については市の補助金(地域振興補助金)で支援

※この他、平成20～22年度の3ヶ年事業として、島根県中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業を活用して、市内1箇所に常勤の地域マネージャー1名を配置

No.49

5年間の取り組みから

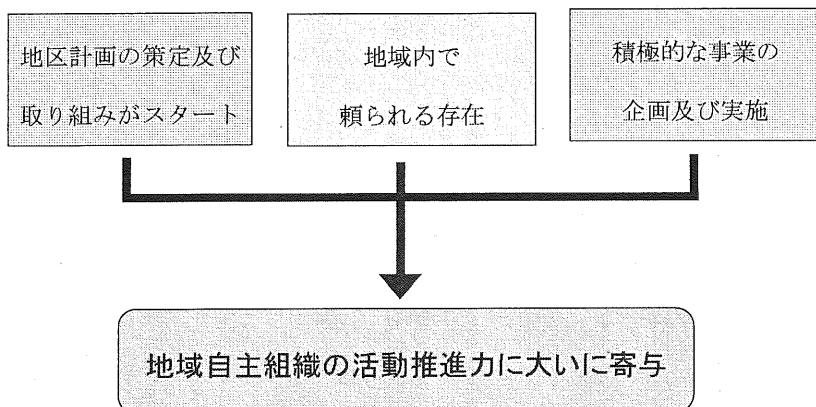
■ 現状



No.50

5年間の取り組みから

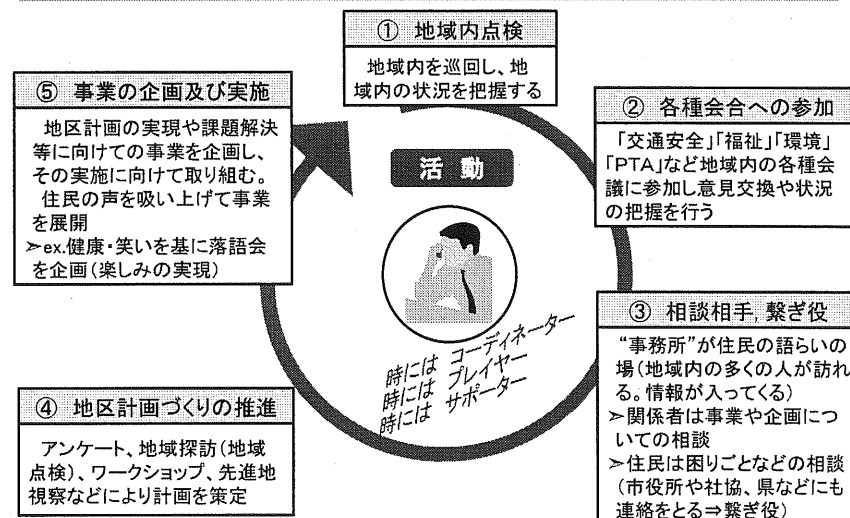
■ 効果 (5年間の成果)



No.51

5年間の取り組みから

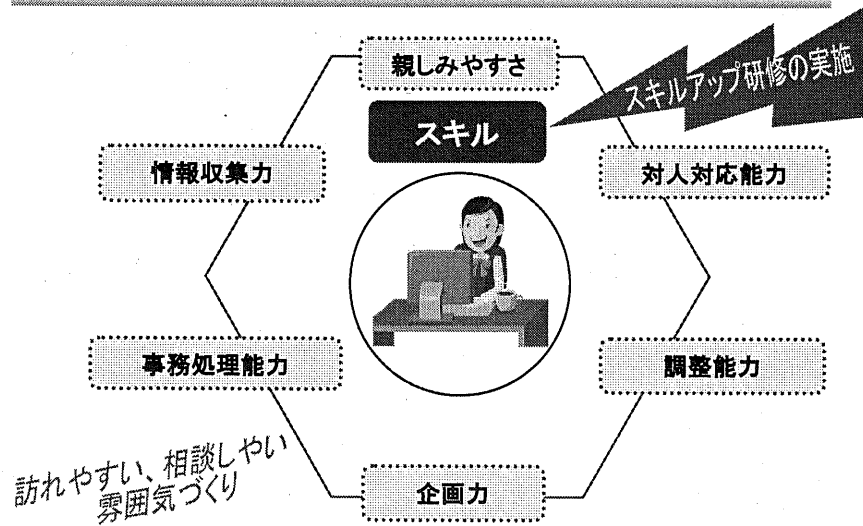
◇ 雲南市の地域マネージャーの活動



No.52

5年間の取り組みから

◇ 地域マネージャーのスキル



No.53

IV. 交流センター

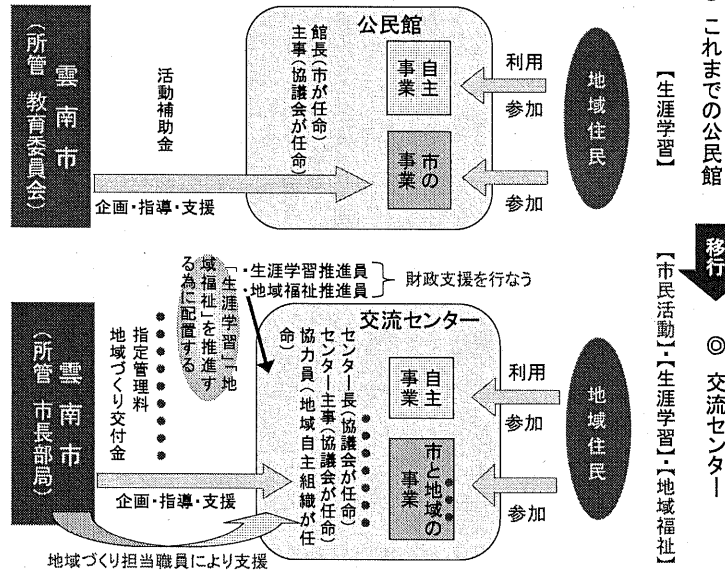
活動のきっかけと後押し

(地域自主組織を支援する取り組み)

No.54

地域自主組織の活動拠点

交流センターの設置



No.55

交流センター 位置図

～地域自主組織活動拠点～

29施設



- 交流センター長(非常勤) 1名
- 交流センター主事(常勤) 1名
(但し 加茂交流Cのみ3名)
- 協力員 年間80日
(主事代替、夜間管理、事務補助)
- 生涯学習推進員
3万円/月(≒5日程度)
- 地域福祉推進員 ※社協経由
5.4万円/月

算出: 54千円=30千円(地域振興課算定)+9.9千円(いきいきサロン開催)+4.1千円(健康福祉総務課算出)+10千円(社協上乗せ)
※加茂のみ2人。三刀屋は経過措置により地域より高い

No.57

実際の地域自主組織の活動を見てみよう!!

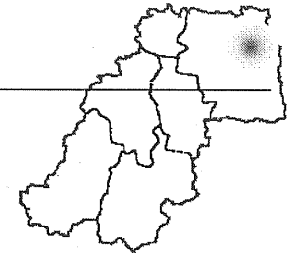
【海潮地区】

- ・ 概要
- ・ 組織図
- ・ 会議
- ・ 評議員・部員の構成
- ・ 主な取り組み

〈田舎暮らし体験ツアーin海潮 / UIターン呼びかけ交流事業
 / 子育て支援事業 / 観光ルート整備事業 / うしお郷土館整備
 / 夜神楽大会 / リーダー研修 / 団体・グループの活発な地域活動 / 各種事業等の支援

No.58

〈地域マネージャーの活動事例〉 海潮地区の概要



- 面積 38.36km²
- 人口 1,911人
- 世帯数 495世帯
- 自治会数 15自治会
- 学校 中学校(1) 44人、小学校(1)103人、幼稚園 (1) 21人

□ 高齢化率 34.1%

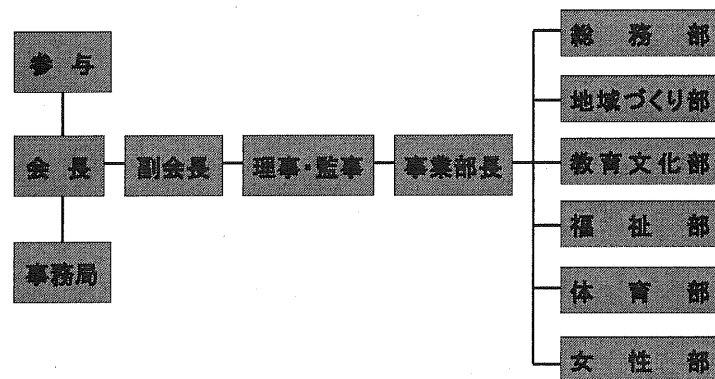
□ 地域自主組織 海潮地区振興会

- ・ 設立 H38.8.27 (H17.7.22雲南市地域自主組織として登録)
- ・ 構成団体 自治会、女性の会、老人会、PTA、消防団、体育協会、JA、農業委員、民生児童委員、神楽社中、盆踊り保存会 など

※(数値はH22.8.1現在)

No.59

海潮地区振興会の組織図



No.60

会議

◆ 評議員会 (議決機関)

◆ 役員会 正副会長、理事、監事、事務局

◆ 正副会長会

◆ 部長会

◆ 参与会

No.61

評議員・部員の構成

幼稚園長／小学校長／中学校長／JA店長／郵便局長／自治会長／自治会女性部長／自治会青年部代表／体協会長／交通安全協会支部長／商工会地区長／職工会長／消防分団長／延寿会連合会長／ボーイスカウト団委員長／社会教育委員／体育指導委員／幼・小・中PTA会長／JA役員／森林組合役員／農業共済組合役員／土地改良区役員／農業委員代表／民生児童委員代表／福祉委員会代表／地域安全推進委員代表／更生保護女性会代表／神楽社中代表／盆踊り保存会長／安来節保存会長／カラオケ同好会代表／舞踊グループ代表／伝統工芸グループ代表／地域委員／地域マネージャー

No.62

主な取り組み

- 田舎暮らし体験ツアーin海潮
- UIターン呼びかけ交流事業
- 子育て支援事業（うしおっ子ランド）
- 観光ルート整備事業
（観光マップ作成・ボランティアガイドの養成）
- リーダー研修（先進地視察）
- 各種事業支援
（農地・水・農村環境保全向上活動支援事業 等）

No.63

V.ひとづくり

活動のきっかけと後押し

（地域自主組織を支援する取り組み）

● 人材育成（研修の機会）

No.85

〈人材育成の取り組み〉

地域をつくるのは人

最終的には人づくりが一番であり、人材があつてこそ各種事業の展開が生まれます
そこで、特に人材育成の視点から、各種人材育成に繋がる研修会等を提供します

★まちづくり講座

（一般向け：地域委員会研修〔公開講座〕、補助金報告会基調講演なども含む）

地域で取り組まれている地域自主組織の取り組みを側面的に支援し、「市民が主役の自治のまち」実践に向けて取り組むため、市民への機運醸成と共に、幅広い情報を提供することで、参加者の「気づき」「やる気」「地域の元気」を引き出せる講座として開催する。

★まちづくりリーダー講座

（地域マネージャー等リーダー向け）

住民の皆さんがどのような考えを持っているのか把握することが大切であり、アンケートの実施や意見交換会、ワークショップの実施などを通じて地域内の良いところや課題を見つけ出し、計画的に事業等を推進することが今後必要。

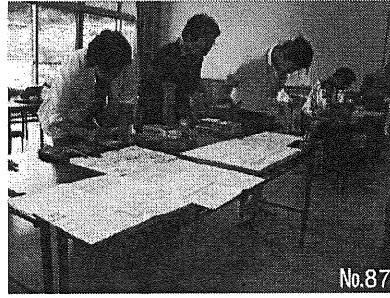
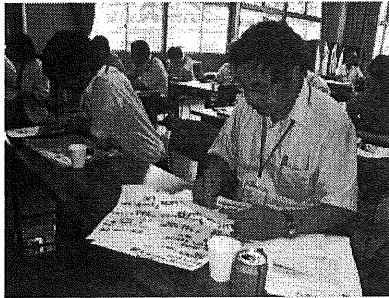
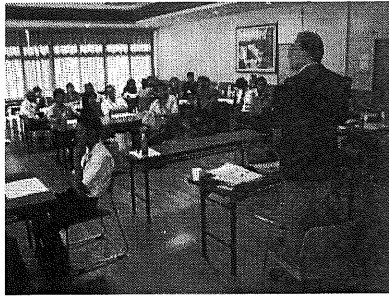
そこで、この地域自主組織の活動を継続発展するためにはリーダー育成は欠かせず、この講座は、専門的な能力の習得及び向上に繋がる実務的な研修とし、併せて参加者相互の情報交換や交流の場として開催する。



No.86

地域づくり実践研修会2010

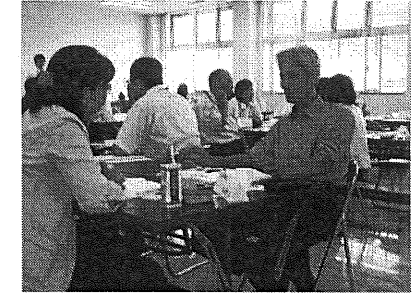
(H22.7.20~21)



No.87

スキルアップ実践研修会

(H22.9.30)



No.88

VI.情報発信

活動のきっかけと後押し

(地域自主組織を支援する取り組み)

- コミュニティ活動の情報発信
- コミュニティブログの活用
- ケーブルテレビの活用
- 広報紙づくりの推進

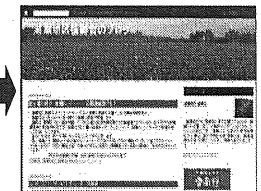
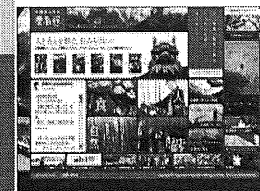
No.89

コミュニティ活動の情報発信

① コミュニティブログの活用

雲南市が開設する「雲南ブランドウェブサイト」のコミュニティブログを活用して、地域自主組織の情報の発信・交換の場とする

雲南ブランドウェブサイト <http://www.co-unnan.jp/>



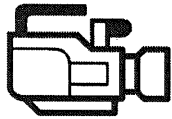
No.90

コミュニティ活動の情報発信

② ケーブルテレビの活用

市内には、地域自主組織を始めとする多くの市民活動団体が社会や地域への貢献を目的にそれぞれの得意技を活かしながら熱い想いをもち活動されている。

その活動を広く市民の皆さんに知って頂き、活動に関心をもってもらうことで、賛同者が増えたりネットワークが広がったりすれば、もっとすばらしい活動になっていく。



そこで、地元ケーブルテレビ局「雲南夢ネット」の番組(15~20分)として「元気発信 市民参加のまちづくり」を制作し放映。

No.91

コミュニティ活動の情報発信

③ 広報紙づくりの推進

情報の発信は内外ともに大切。特に地域自主組織が設立して間もない場合や認知度が低い場合は、地区内部への情報提供が大変重要。

手にとって読むことの出来る広報紙は有効な情報伝達手段。更に各戸へも配布されることから地区内での情報共有には欠かせない。また、活動の記録としても役立つ。

広報紙による情報発信が推進されるよう市としても推進策を展開する。(ex.広報紙づくりの研修,発行に対する補助)

◇ 広報紙作成・ブロック活用術ステップアップ研修会

開催日時: H22. 6. 26 9:50~15:40

場所: 雲南市勤労青少年ホーム

講師: NPO法人くらしアトリエ 榎 慈子さん、今若 麻希子さん

内容: 広報紙の役割、ブログの役割 / 読みやすいレイアウトとは / 見出し
コツ / まとめ方のコツ / 取材してみる(実践)



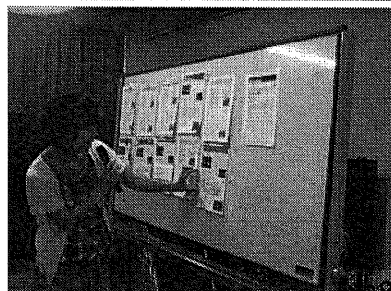
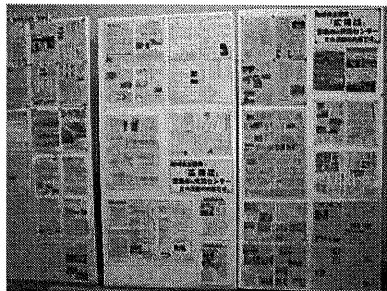
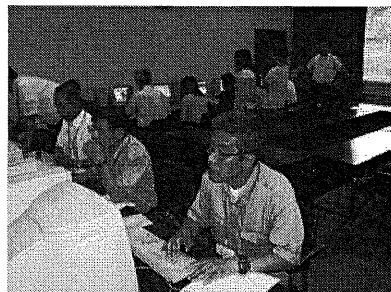
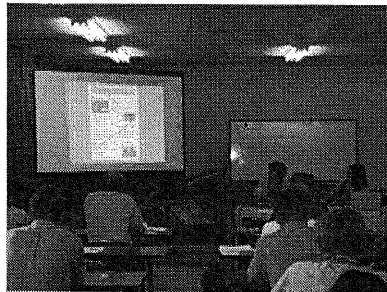
地域自主組織「躍動と安らぎの里づくり鍋山」の広報紙



No.92

広報紙作成・ブロック活用術ステップアップ研修会

(H22.6.26)



No.93

みんなで力を合わせ!!

住みたいまち、 住んで誇りの持てる 雲南市づくり

No.94